様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　25　年　6　月　19　日現在

機関番号：32309
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2009　～　2012
課題番号：21792238
研究課題名（和文）　若年性乳がん患者のエンパワーメントを促進するサポートプログラムの開発と評価
研究課題名（英文）　The Development and Evaluations of a Support Program to promote the Empowerment of Young women with Breast Cancer

研究代表者
萩原　英子(HAGIWARA　EIKO)
群馬パース大学保健科学部・講師
研究者番号：40438776

研究成果の概要（和文）：若年性乳がん患者のエンパワーメントを促進するサポートプログラムを開発することを目的に研究を実施した。第１段階として、がん患者のエンパワーメントの概念分析を行った。その結果、がん患者のエンパワーメントは、「がん患者が、がん患者を取り巻く人々との間に構築されるパートナーシップとその相互作用の中で、患者自身の motivation を契機に、自律的・主体的活動、問題対処能力の獲得、自己の内的 strength の自覚・強化を行うことによって、がんや治療、人生に対する思いをリフレーミングする能力を得るプロセスである。」と定義された。第２段階として、若年性乳がん患者の体験について質的分析し、これらの結果をもとに、第３段階として、若年性乳がん患者のエンパワーメントを促進するサポートプログラムの構築を図った。

研究成果の概要（英文）：We carried out research with the aim of developing a support program to promote the empowerment of young women with breast cancer . In the first stage, we performed a concept analysis on empowerment in cancer patients. Consequently, we have defined the concept of cancer patients empowerment as “a process of gaining the ability to reframe thoughts about cancer, treatment, and life through the enhancement of active and independent behavior, acquisition of problem-solving abilities, and recognition and reinforcement of intrinsic strength, on the basis of the patient’s motivation, and realized through the interaction within the partnerships constructed between the cancer patients and people surrounding the patient”. In the second stage, we performed a qualitative analysis on the experiences of young women with breast cancer. Based on the analysis, we attempted in the third stage to construct a support program aiming to promote the empowerment of young women with breast cancer.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	700,000	210,000	910,000
2010 年度	600,000	180,000	780,000
2011 年度	800,000	240,000	1,040,000
2012 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
総　計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：医歯薬学
科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学
キーワード：若年性乳がん、エンパワーメント、サポートプログラム、がん看護学

１．研究開始当初の背景

日本における乳がん罹患数は増加の一途を辿っている。なかでも若年性乳がんは、我が国でも、徐々に増加傾向にある。

乳がんは、女性のアイデンティティに関わる乳房の喪失体験を伴うという点で他臓器のがんとは異なり、治療が長期にわたるという点でも、身体的、精神的苦痛や苦悩は計り知れない。特に、若年者と呼ばれる 20 代、30 代の乳がん患者は、壮年期・老年期の患者に比較し、女性ホルモン遮断補助療法に反応しないなど完治率が低い傾向にあり、治療が長期化することが多い。また、Levinson によると、20・30 代は、自己の発達を図り、社会において適切な役割を得る段階にあり、これから結婚・出産を控え、社会的責任も拡大していく時期にある。それゆえ、自分自身の女性としての将来を考え、病気のことを知られまいとして孤立したり、乳房喪失や胸の傷、治療によるストレスなどにより、大きな衝撃を受け、ボディイメージの障害や自己価値の低下を経験する。心理反応や乳房喪失の受容について、年齢層によって比較した多くの先行研究でも、若年層患者の方が、手術前から退院後を通して、病気以外にも容姿の変化や腕の機能に対する多くの不安を訴えており、より多くの継続的看護援助を必要としていることが報告されている。しかし、国内の先行研究では、若年性乳がん患者に焦点を当てた研究は少なく、乳がん患者の心理的適応や不安を明らかにした研究の一部として年齢層別に比較されているに過ぎない。国外の研究においても、若年性乳がん患者の経験と情報に関する研究、若年性乳がん患者に対する看護師の役割に関する報告はみられるが、看護介入効果を扱ったものは殆ど着手されておらず、国内外を通して、その看護援助は確立されていない現状にある。

また、近年の医療制度改革により、患者の在院日数は短縮化の傾向にあり、外来通院で治療を続けながら、社会生活を送っているがんサバイバーが増加している。若年性乳がん患者もその例外ではない。若年性乳がん患者が、結婚・出産や社会的責任の拡大という時期に、治療と生活を継続していくためには、患者自身が乳がんであることを理解、自己管理し、生活の再構築を行っていくこと、つまりエンパワーメントしていくことが重要となる。

エンパワーメントは 1980 年代以降、住民・患者・障害者などを対象として地域・精神保健や福祉、看護、ヘルスプロモーションなどの領域で特に注目されている概念である。

1986 年、オタワ憲章において、エンパワーメントは「人々や組織、コミュニティが自分たちの生活への統御を獲得する過程である」と定義された。しかし、この概念の捉え方は使用される分野により若干の違いがあり、多義性を持つ。この概念におけるパワーとは自らの生活を決定する要因を統御する能力のことであり、このパワーが欠如したパワーレスな状態が人々の健康に対する危険因子であることは既に明らかとなっている。

日本の看護学分野においても、対象の自律化・主体化の有効性に着目し、その自己効力感を高めるというエンパワーメントに着目した研究が行われるようになってきており、エンパワーメントを高めることにより、課題の克服や QOL 向上を図ることができることが明らかとなっている。しかし、その研究の多くは、看護師・保健師教育に関するものであり、その概念の多義性ゆえ、疾患を有する患者に対する介入概念として用いられているものは少ない。

これらの背景より、若年性乳がん患者が疾患に関して理解、自己管理をし、主体的に生活を再構築し、がんと共に生きる力を得ることを支援する継続的看護援助方法を検討し、実施するには、エンパワーメントの視点から考察することが有用であると考えた。

２．研究の目的

本研究では、若年性乳がん患者のエンパワーメントを促進するサポートプログラムを開発することを目的として、以下の具体的な研究目標を設定した。

(1)がん患者のエンパワーメント概念を明確にする。
(2)若年性乳がん患者の体験を明らかにする。
(3)若年性乳がん患者のエンパワーメントを促進するサポートプログラムを考案する。

３．研究の方法

3 つの研究目標に沿って下記に記述する。

(1)がん患者のエンパワーメント概念の明確化

①データ収集方法

対象文献の文献検索範囲を看護学、公衆衛生学、社会学、心理学、教育学の 5 分野とし、empowerment の近年の使われ方に焦点を当てるため、2000～2010 年に発表された会議録以外の文献を検索対象とした。和文献の検索には、Web 版医学中央雑誌 Ver.4、社会学文献情報データベース、CiNii を活用し、それぞれの検索サイトにて、「エンパワーメント」または「エンパワー」と、「がん」「患者」を掛け合わせて検索を行った。英文献の検索は、CINAHL、MEDLINE、Social Science Research Network、PsycNET、ERIC を活用し、それぞれの検索サイトにて、「empowerment」または「empower」と、「cancer」「patient」を掛け

合わせて検索を行った。
　これらの文献検索によって抽出された文献のうち、がん患者のエンパワーメントをキーワードとして論じており、国内で入手可能な文献を対象とし、重複した文献を除いた結果、抽出された論文のうち、抽出される分野に偏りが生じないよう各分野毎に20%にあたる文献を無作為抽出し、計35件(和文献7件、英文献28件)を分析対象文献とした。更に、2次文献として英文献2件を追加し、最終的に、計37件を分析対象文献とした。
②分析方法
　本研究では、Rodgersのアプローチを採用した。分析は、まず、関心のある概念とその検索領域を明らかにし、分析対象文献を抽出した。次に、分析対象となった文献毎に、研究者が独自に作成したコーディングシートに、定義や属性(Attributes)、先行要件(Antecedents)、帰結(Consequences)に関する記述を抽出し、質的分析を行った。さらに、この結果を踏まえて、概念の定義を案出し、この定義を実践的に説明するために、モデルケースを例示した。
(2)若年性乳がん患者の体験の明確化
①データ収集方法
　若年性乳がん患者(young women with breast cancer)の看護について述べている論文を抽出するため、CINAHL及びPubMedを使用し、「breast cancer」「young women」「nursing」をキーワードに検索を行った。検索対象期間は、検索出来る全年とした。研究内容が独創性を有し、また学術的価値のある研究成果を記述した研究論文を対象とするため、原著論文に相当する論文または学術論文の形式が整っている論文のみを対象とし、資料、会議録、解説などは除外した。更に、抽出された各研究論文のタイトル、キーワード、要旨を熟読し、若年性乳がん患者の看護に関する論文であるか否かを検討した後、本文を読み、目的に沿った論文であることを確認し、研究対象論文を選定し、最終的に9件を分析対象文献とした。
②分析方法
　対象となった研究論文全てについて、研究者が独自に作成したレビューシートを用いて分析を行なった。レビューシートには、研究対象文献の概観を示すために、文献ID、目的、研究デザイン、方法、対象者の概要、結果の項目で構成した。
　また、対象となった論文を精読し、各研究論文の研究結果より、若年性乳がん患者の体験について描写されている箇所を抽出し、類似性に沿って分類し、カテゴリー中心的テーマに着目して概観した。
　この分析の過程では、複数の研究者間で繰り返し討議を行いながら分析を行う事で信頼性の確保に努めた。
(3) 若年性乳がん患者のエンパワーメントを促進するサポートプログラムの考案
　若年性乳がん患者のエンパワーメントを促進するサポートプログラムを開発するために、これまでの研究の結果を基に目的・目標、内容、介入時期、介入回数を検討した。

４．研究成果
(1)がん患者のエンパワーメント概念の明確化
　概念分析の結果、がん患者のエンパワーメントは、4つの先行要件、6つの属性、5つの帰結から構成された。また、がん患者のエンパワーメントは、「がん患者が、がん患者を取り巻く人々との間に構築されるパートナーシップとその相互作用の中で、患者自身のmotivationを契機に、自律的・主体的活動、問題対処能力の獲得、自己の内的strengthの自覚・強化を行うことによって、がんや治療、人生に対する思いをリフレーミングする能力を得るプロセスである。」と定義された。
　しかし、この概念を使用する上では、日本文化の中での状況的背景を考慮することや、患者・医療者間におけるmotivationの調整が不可欠である。更に、エンパワーメント概念は様々な概念の要素を含んでいるため、今後も近接概念との関連性を追究し、体系化を目指すことが必要であることが示唆された。
(2)若年性乳がん患者の体験の明確化
　分析の結果、若年性乳がん患者は、生殖や妊孕性に関する問題、セクシャリティに関する問題、長期にわたるがんサバイバーとして生きる人生に関する懸念などを抱えていた。
　また、乳がんの罹患によって多くの役割やライフプランの変更を余儀なくされており、乳がんと診断された直後から、自分自身の病気や治療に関してだけでなく、これらについても熟考していることが明らかとなった。
　以上のことより、生殖や妊孕性、セクシャリティに関する情報提供を中心とした支援のほか、若年性乳がん患者が抱える多くの懸念について、若年性乳がん患者が医療者に相談したり、または患者同士が共有できる場の提供やそのような場を紹介する機会を設けることの必要性が示唆された。
(3) 若年性乳がん患者のエンパワーメントを促進するサポートプログラムの考案
　がん患者のエンパワーメント概念及び若年性乳がん患者の体験を基にして、サポートプログラムの目的と具体的な目標を設定した。
　サポートプログラムの対象は、若年性乳がん患者自身とし、プログラムの内容は教育的支援と情緒的支援で構成し、介入回数等を検討した。
　プログラムの支援を行う上で、対象者の理解を促すためのツールとしてパンフレット

やDVDの活用は有効であると考え、それらの作成に着手した。
　作成したサポートプログラム案については、今後も内容の精錬を図り、臨床適用に向けて検討していくことが必要である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２件）
①□Eiko Hagiwara、Tamae Futawatari、Trends and Issues Related to Studies on Cancer Patient Empowerment、THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL、査読有、Vol.61 No.3、2011、367－375

② Eiko Hagiwara、Tamae Futawatari、A Concept Analysis: Empowerment in Cancer Patients、THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL、査読有、Vol.63 No.2、2013、165－174

〔学会発表〕（計０件）

〔図書〕（計０件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
　萩原　英子（HAGIWARA　EIKO）
　群馬パース大学保健科学部・講師
　研究者番号：40438776

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：